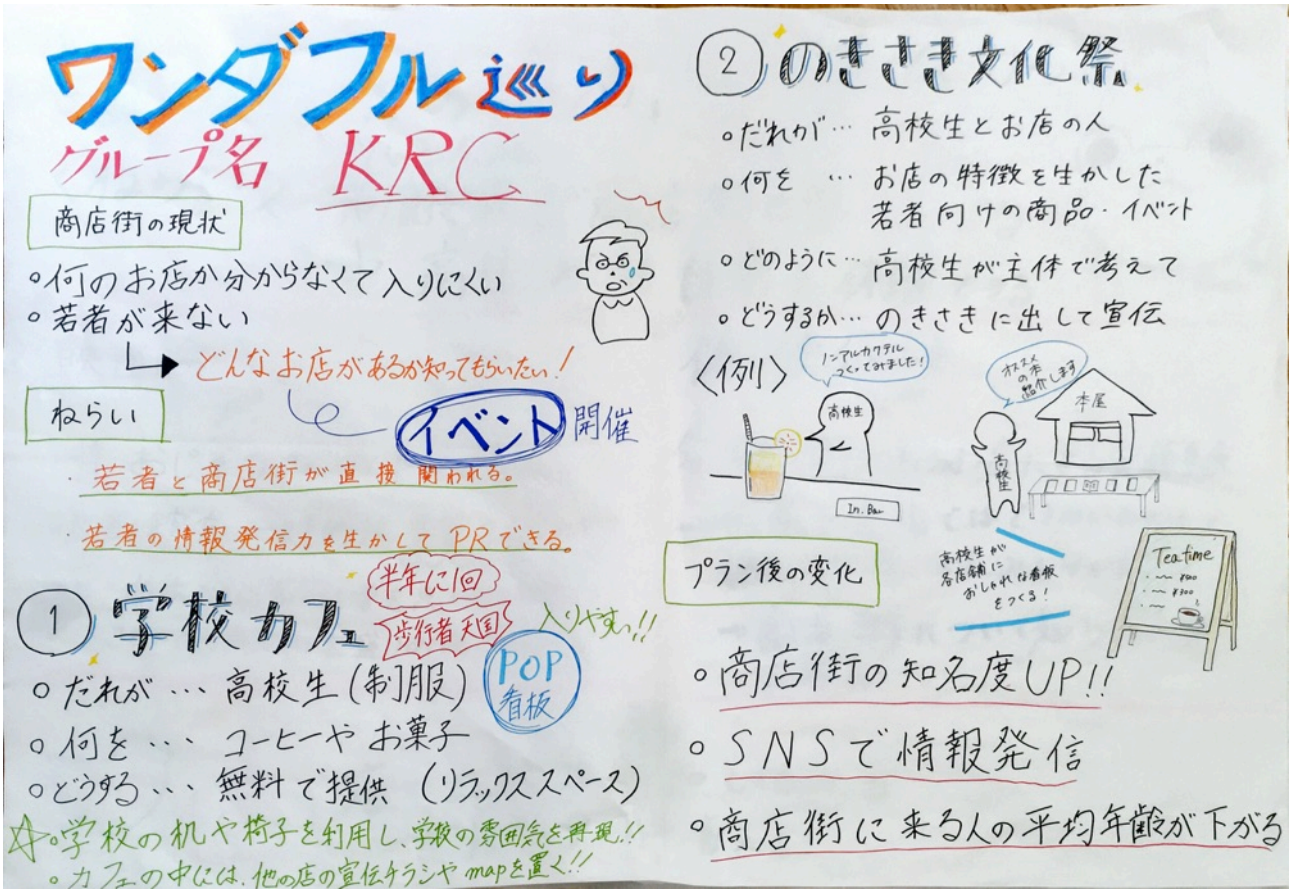
テーマ：子ども・若者も巻き込んだ商店街活性

第1回Quick&Chalk
プログラム提案内容A



コンセプトや背景

空き店舗が多く、街に出てその理由を調査をすると閉店した店は高齢化、運営されている店も何の店か分からないため、若者が足を運ばないのでは?と考えた。若者が商店街と直接関り、情報発信力をいかして、どんな店があるのか広く周知するイベントを開催する。

提案内容

今まで知らなかった商店街を驚きで印象づけたいと考えテーマ「ワンダフル巡り」をつけた。

①学校カフェ

空き店舗を学校のような内装にして高校生がスタッフとなり、半年に一回開催するカフェ。お客さんには、リラックスしながら懐かしさを感じてもらう。商店街と出入りできるような、魅力的な入り口をつくる。

②のきさき文化祭

商店街と文化祭を融合させる企画。高校生が主体となり、店舗の主人と連携しながら魅力的なのきさきをつくり、商店街全体を盛り上げる。何の店か分からないことを解決しながら、店の中でお客さんを待つのではなく「のきさき」でお客さんをおもてなしして、ファンを増やすことがねらい。例えば、写真映えする飲み物をバーで販売することや本屋と連携してビブリオバトル（本の魅力を報告）する企画を考案した。

若い層と商店街の関係を増やし知名度をUPさせる。

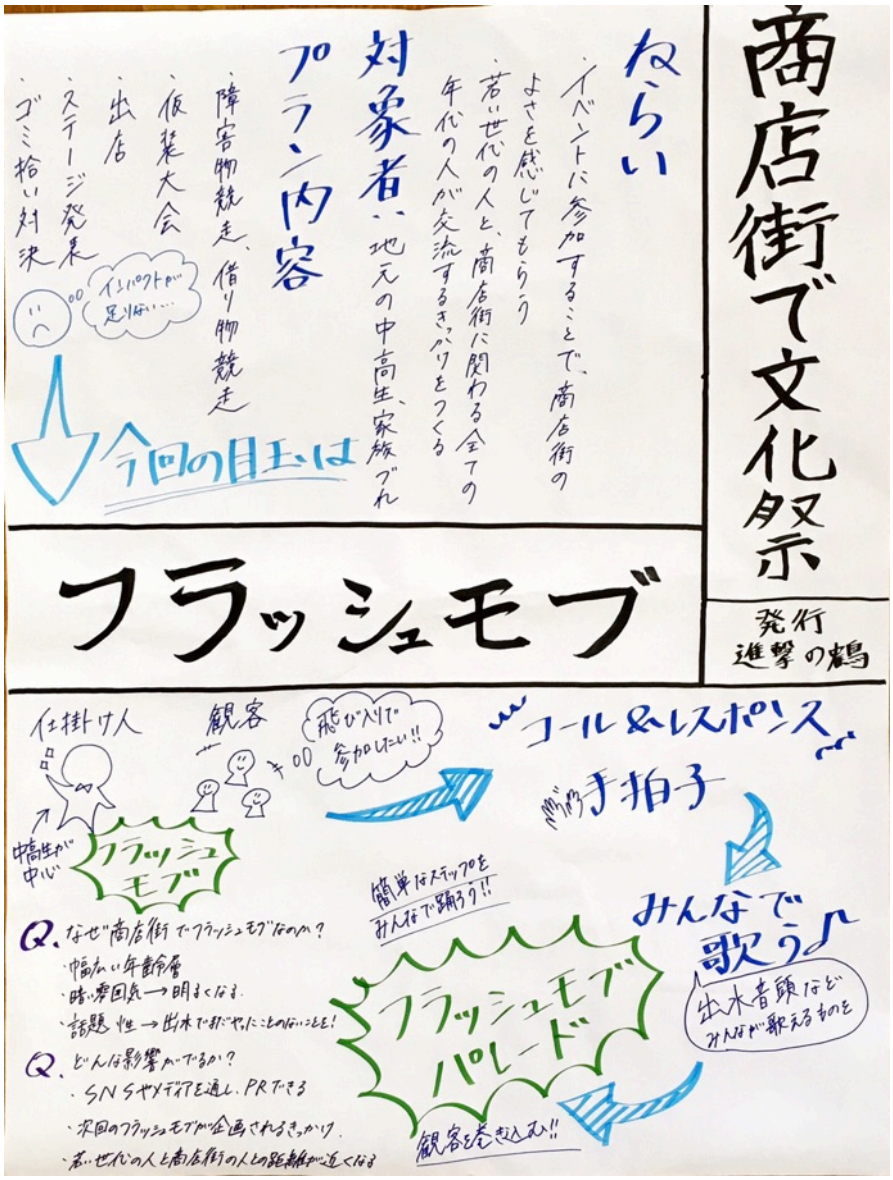
感想

○企画を考える過程で、「運営する人も参加する人もわくわくするイベントを開催したい」と考えるようになった。自分がやりたい!楽しい!と思うことをはっきりさせ、形にすることが重要だと気づく2日間となった。

メンバー：れいめい高校1年男子、2年女子
出水高校2年女子、
鹿児島大学2年女子、3年男子

テーマ：子ども・若者も巻き込んだ商店街活性

第1回Quick&Chalk
プログラム提案内容B



コンセプトや背景

高齢化、担い手不足、目的のある店舗にしか行かない、広報に力が入れられていない等課題が山積していた。逆に、30,40代の活躍が目立つ、地域の居場所づくりに力を入れている。良いところを活かして、課題を解決する企画を考えた。

提案内容

イベントのテーマは文化祭。若者に馴染みがあるのでつけ、参加した子どもが「こんなイベントがあったよね。」と大人になって話すような、思い出として残していきたい。

○文化祭内容

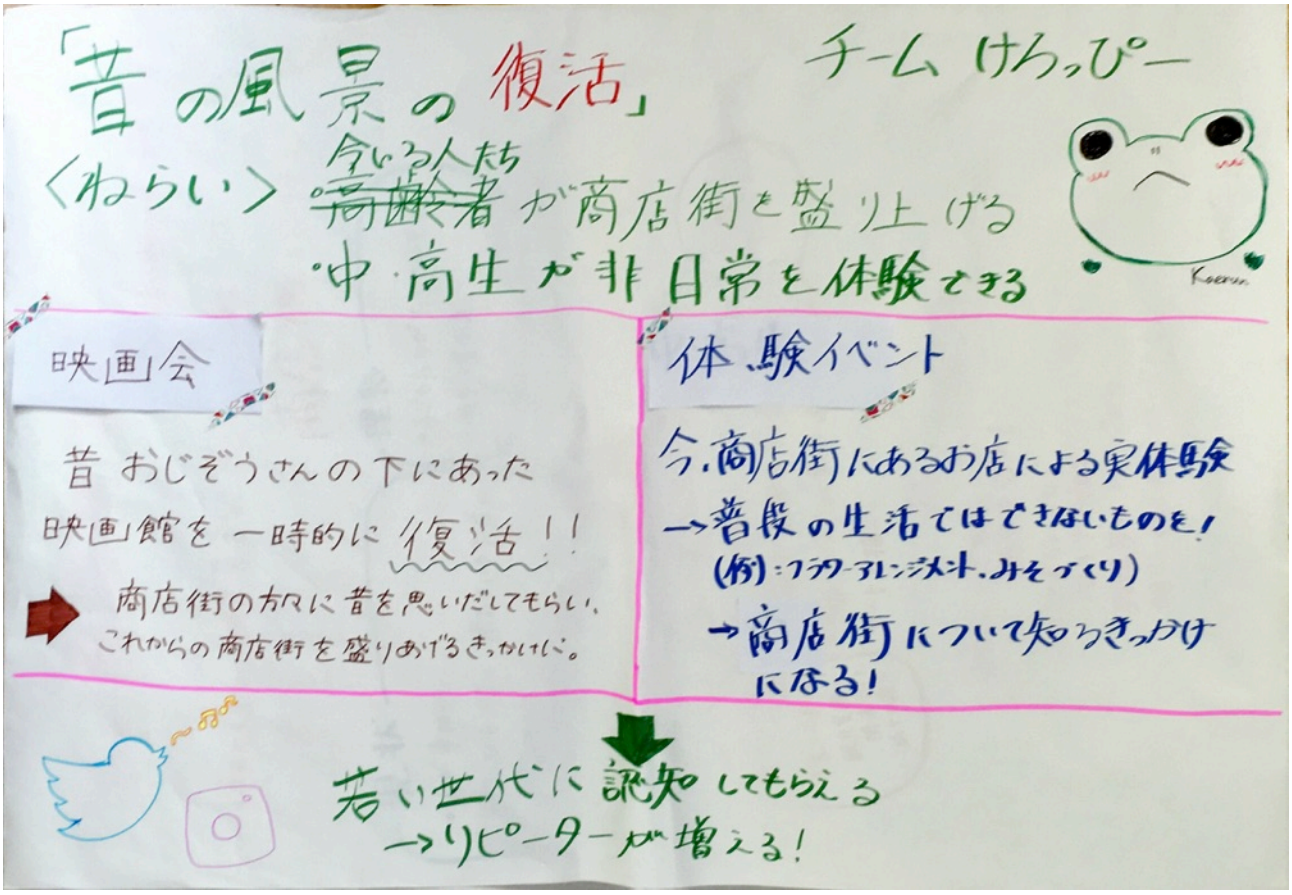
催しに関連する高校の部活と店舗がタイアップして、運営していく。商店街のものを持ち寄り、直径500mの道路を活かす障害物・借り物競争。出水に関連する仮装大会。各店舗の強みを活かす出店。習い事をするグループを集める、ステージ発表。ゴミ拾いをしながら、道路に絵を描くアートパフォーマンス。

ラストはフラッシュモブ。ダンスを習っている若者が主体となり、商店街を盛り上げる。モブは写真映えし、イベント時は多くの人が拡散してもらえる可能性がある。外部にPRができていなかったことを解決し、最後には名残惜しい雰囲気を残せる。次回は参加したいという人や商店街への愛着を育み継続的な商店街の関心を育んでいきたい。

感想

○最初は知らない人ばかりで上手くやれるか不安であったが、みんなと2日間企画を考えることができてよかった。イベントを通じて、他地域に誇れる出水にしたいと思い、それに自分も関わりたいと思うきっかけとなった。

メンバー：れいめい高校1年男子、2年女子
出水高校3年男子、鳳凰高校2年女子
鹿児島大学2年男子、3年女子



コンセプトや背景

北薩地域在住の高校生は鹿児島市まで映画を観に行っているが、昔は商店街に映画館があった。以前のような活況があると良いが、高齢化や人材不足でアクションが難しいことを聞く。文化体験を通じて、若い人を書店街に巻き込むことをねらいに企画を考えた。

提案内容

「懐かしい」と「新しい」の融合、「昔の風景の復活」をテーマにした。2つの企画を同時開催して、商店街を楽しむ場としていきたい。

①映画会

昔映画館があった場所で、復活映画祭を開催する。商店街に住む人は昔を懐古し、高校生は非日常を感じる機会としたい。上映内容は、中高生が喜ぶ内容の映画を上映する。

②体験イベント

店舗に協力してもらい、子どもたちに店に関する体験をしてもらう。実際に店舗の従業員に話を聞き、花屋ではドライフラワーの飾り付け体験、醸造店では味噌の仕込み体験、衣装屋では振袖やウエディングドレスの着用体験が可能。

体験を通じて知ること、SNS拡散で魅力の発信をして、出水が好きな人を増やしていきたい。

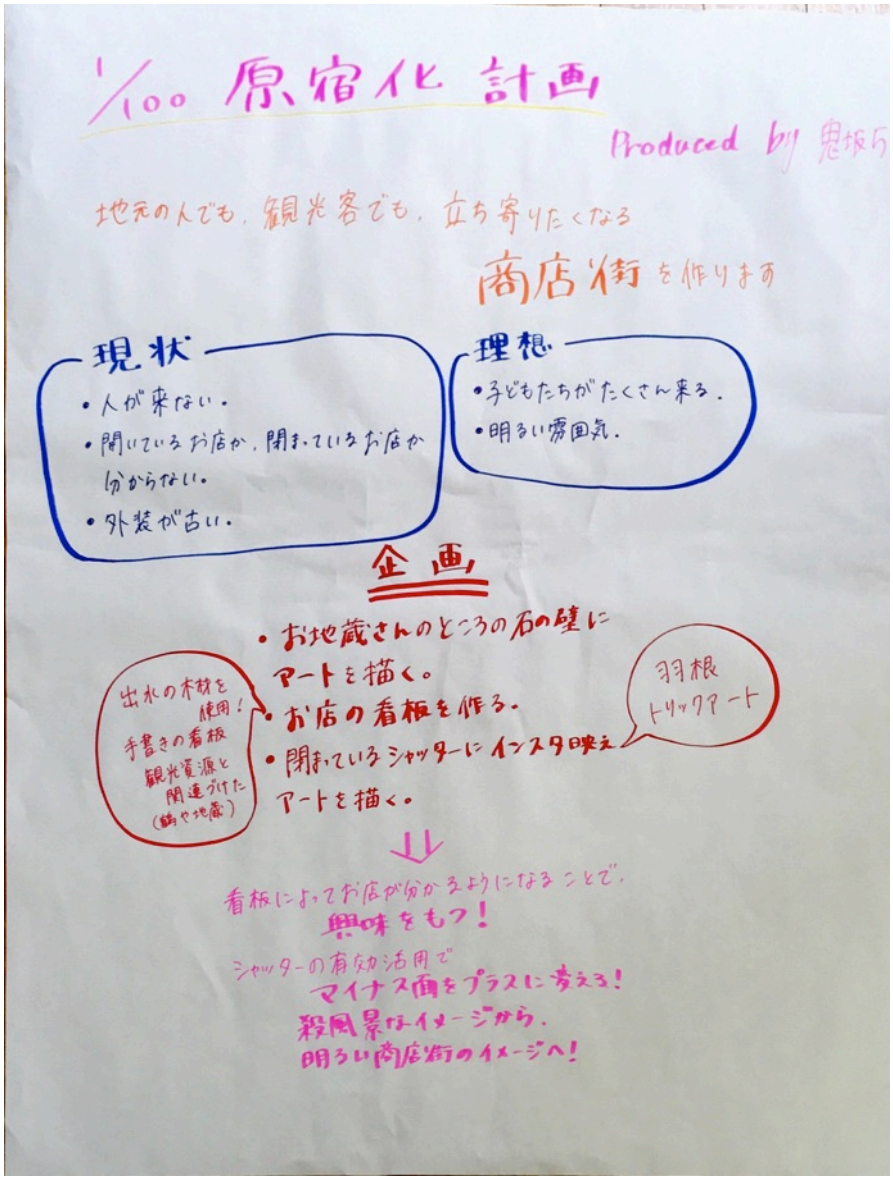
感想

○自分に持っていない視点や発想で、仲間に助けられ刺激となった。今回の経験をきっかけに地域イベントに参加して地元の人の声を聞き、高校生の立場として発想を磨いていきたいと思った。併せて、人がたくさん来るように自分からSNS等で発信していきたい。

メンバー：れいめい高校1年女子、2年女子
出水高校2年女子
鹿児島大学2年女子、3年男子

テーマ：子ども・若者も巻き込んだ商店街活性

第1回Quick&Chalk
プログラム提案内容D



コンセプトや背景

商店街を歩いてみて、すれ違う人が少なかったこと、景観がすこし古くて見劣りするように感じた。市街からも若い人が集まり、商店街を歩き、それに合わせて見た目もフレッシュになって欲しいと考えた。

若い人が好きな原宿をモデルにした「1/100原宿化計画」を企画した。

提案内容

○壁画・商店街アート

日本一大きいお地蔵さんの壁面に写真映えするアートを描く。現在描かれている絵は消えてきているので、明るくカラフルで写真が撮りたくなるものを高校生・中学生が中心となり描く。コンセプトに合わせて、商店街の看板や閉まっているシャッターに手書きの温かい雰囲気のデザインやアート加えていく。

シャッターが閉まっているのはもったいないと感じ、店舗前で写真を撮る人が増えたら店主も喜ぶと思った。アートを描くことで、そのお店が開いているのか、またはどのようなお店なのかわかるので足を運ぶ人が増えると考えている。

見た目から変化を促し、若者が足を運ぶきっかけをつくりたい。

感想

○商店街について素直に思っていることを話すことができ、それをもとに話し合いができたように感じる。周りの人に意見をまとめることを助けてもらい、今後はボランティアやイベントへの参加など地域にできることをしていきたいと思った。

メンバー：れいめい高校1年女子、2年女子
出水高校1年女子
鹿児島大学2年男子、3年男子